

コロナ感染者数減少に伴う経済活動再開により改善。一方で、原材料価格高騰等の影響が拡大。

▶ 令和4年4月～6月の自社業況DI(全業種)は▲4.3で、前期比+15.0ポイントと大幅に改善。博多どんたく開催などイベントの再開、福岡コロナ警報解除(5/31)後の調査ということもあり、コロナ感染者数減少に伴う経済活動の回復への期待感が改善幅を押し上げた。業種別では、小売業、卸売業、サービス業で大きく改善。(表1・グラフ)

▶ 次期(令和4年7月～9月)の自社業況DI(全業種)は▲2.4で、今期比+1.9ポイントとさらに改善する見込み。ただ、原材料・エネルギー価格の高騰の長期化や第7波の急拡大などにより、改善幅は縮小の見込み。(表1・グラフ)

▶ 構成別DI(全業種)では、売上額DIと営業利益DIは改善。一方で、原材料・仕入価格DIが8期連続の上昇と高水準で推移。(表2)

▶ 経営上の問題点は上位より以下の通り。(全24項目中)

- 1位「原材料高、入手難(43.1%・前期比+2.5ポイント)」(製造業72.6%、卸売業54.4%、建設業53.7%)
- 2位「人材難、求人難、定着の悪化(40.2%・前期比▲1.7ポイント)」(建設業58.9%、サービス業44.6%、運輸・倉庫業37.9%)
- 3位「受注、需要の増加又は減少(37.0%・前期比▲3.0ポイント)」(卸売業40.0%、小売業38.8%、製造業38.7%)
- 4位「営業利益の低下(36.2%・前期比+2.0ポイント)」(製造業50.0%、建設業34.7%、小売業34.7%)

業種別	前期 (R4.1-3)	今期 (R4.4-6)	次期予測 (R4.7-9)
全業種	▲19.3	▲4.3 (+15.0)	▲2.4
建設業	▲26.3	▲18.9 (+7.4)	▲17.9
製造業	▲18.8	▲8.1 (+10.7)	▲4.9
卸売業	▲14.4	+4.4 (+18.8)	▲11.1
小売業	▲41.9	▲16.3 (+25.6)	+1.9
運輸・倉庫業	▲15.7	▲10.4 (+5.3)	+10.3
サービス業	▲11.0	+6.8 (+17.8)	+9.5

※前期(R4.1-3月期)は前回調査結果。今期の()内は、前期比。

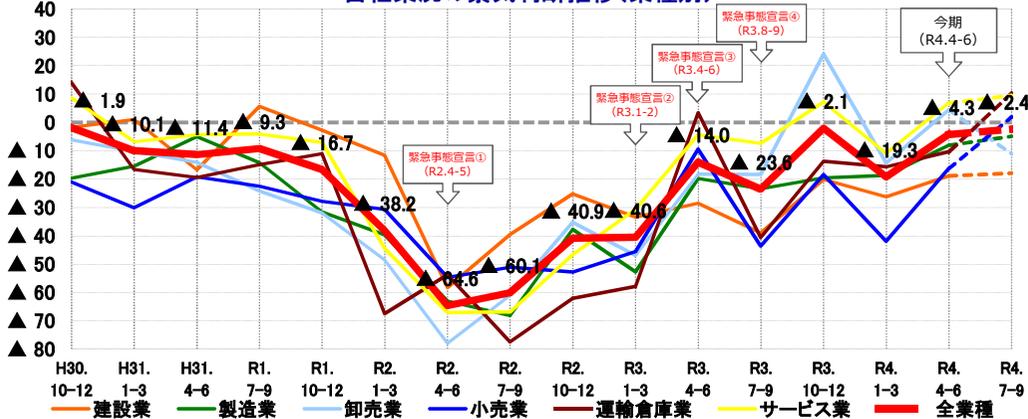
項目	前期 (R4.1-3)	今期 (R4.4-6)	次期予測 (R4.7-9)
売上額	▲11.9	+2.2 (+14.1)	+1.0
原材料・仕入価格	+52.5	+60.9 (+8.4)	+55.8
販売価格	+3.8	+14.6 (+10.8)	+15.6
製品在庫	▲2.2	+0.5 (+2.7)	+1.7
営業利益	▲26.7	▲16.9 (+9.8)	▲18.0
資金繰り	▲13.0	▲9.1 (+3.9)	▲8.7

※前期(R4.1-3月期)は前回調査結果。今期の()内は、前期比。

【企業の声(一部抜粋)】

- ウィズコロナが進んでいることで、顧客の来店、購買意欲が向上しているように感じる。(小売業:百貨店)
- コロナの感染状況が改善したことで地域イベント等が開催されたことや、卸先である飲食業への納品が増加したことが前期比増収の要因となった。(卸売業:食料品)
- コロナの感染状況が落ち着いていることに合わせて、ホテルの客室稼働率も上がり、商品の販売も増えている。今後、インバウンドの規制が撤廃され、売上のスピードが上がることに期待している。(卸売業:その他)
- コロナの収束が見えはじめたことで、貸ホールの利用が前年に比べ改善してきている。昨年比較では改善しているが、コロナ前の水準に回復するにはまだまだ時間がかかると感じている。(サービス業:他の事業所サービス)
- 加工用原料が輸入品のため、コロナ及びウクライナ問題により仕入価格が30%以上上昇しているため、今後への影響が大きい。(製造業:食料品)
- 為替、素材高騰、輸送コストの値上がりが続く状況で、メーカーからの価格改定が実施。値上がり分を全てのお客様に転嫁するのは難しい状況。(小売業:繊維・身回り品)

自社業況の景気判断推移(業種別)

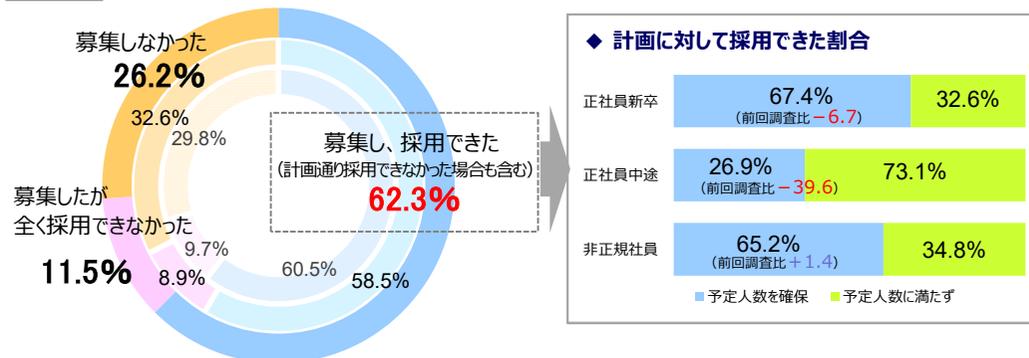


採用状況について【付帯調査】

1-1. 令和3年度(令和3年4月～令和4年4月入社)の採用実績

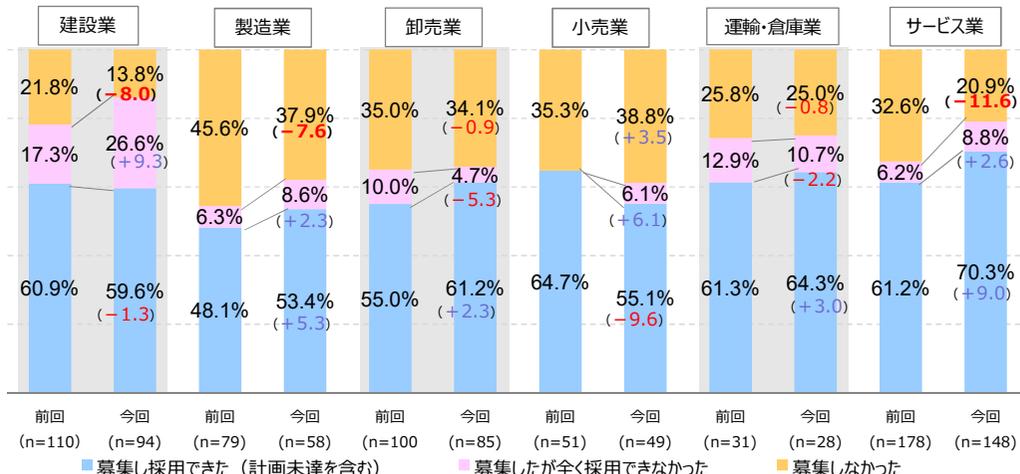
- ▶ 「募集し採用できた」企業(全産業)は62.3%と、前回調査比(令和3年6月) 3.8pt増加。一方、「募集しなかった」企業は26.2%と、前回調査比6.4pt減少。
- ▶ 「計画どおり予定していた人数を採用できた割合」は、前回調査と比べ、正社員新卒▲6.7pt、正社員中途▲39.6ptと、いずれも前回調査よりも減少。非正規社員においては1.4pt増加。

全体 ※円グラフの外側から、今回調査(n=462)、前回調査(令和3年6月、n=549)、前々回調査(令和2年6月、n=527)の順。



1-2. (業種別) 令和3年度(令和3年4月～令和4年4月入社)の採用実績

- ▶ 「募集し採用できた」と回答した企業の割合は、サービス業(前回調査比+9.0pt)、製造業(同+5.3pt)、運輸・倉庫業(同+3.0pt)、卸売業(同+2.3pt)においては増加。
- ▶ 「募集したが全く採用できなかった」と答えた企業は、建設業が26.6%と高く、前回調査よりも+9.3ptと上昇。

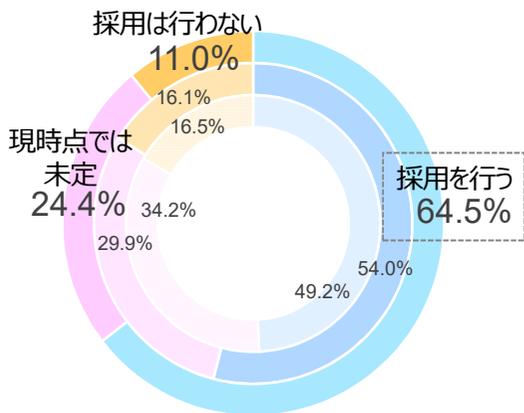


※今回調査結果の()内は、前回調査比。 ※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

2-1. 令和4年度（令和4年4月～令和5年4月入社）の採用活動

- ▶ 「令和4年度に採用を行う」と回答した企業（全産業）は**64.5%**で、前回調査と比べて**10.5pt増加**。
- ▶ 「採用を行う」と回答した企業に採用予定数について尋ねたところ、**正社員の採用を増やす企業は58.8%**（前回調査比+9.7%）、**非正規社員の採用を増やす企業は61.7%**（前回調査比+18.8%）。いずれも、コロナ感染拡大前（令和元年6月調査）を上回った。

※円グラフの外側から、今回調査（n=454）、前回調査（令和3年6月・n=548）、前々回調査（令和2年6月・n=520）の順。



◆「採用を行う」回答の内、採用予定数について

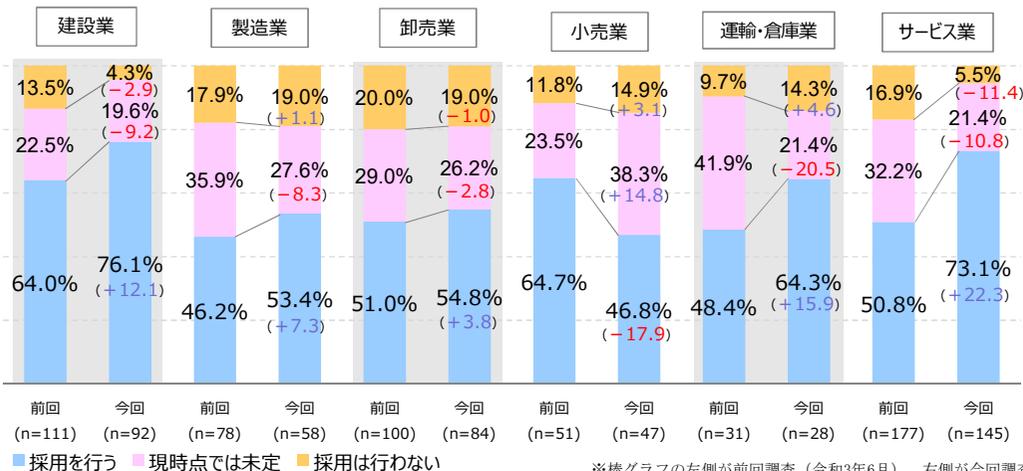
正社員	増やす	昨年並み	減らす
令和4年6月調査	58.8%	39.3%	1.9%
令和3年6月調査	49.1%	45.8%	5.1%
令和2年6月調査	43.9%	45.6%	10.5%
令和元年6月調査	55.2%	41.2%	3.6%

非正規社員	増やす	昨年並み	減らす
令和4年6月調査	61.7%	30.0%	8.3%
令和3年6月調査	42.9%	51.0%	6.1%
令和2年6月調査	47.9%	43.8%	8.3%
令和元年6月調査	53.4%	35.1%	4.3%

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

2-2. （業種別）令和4年度（令和4年4月～令和5年4月入社）の採用活動

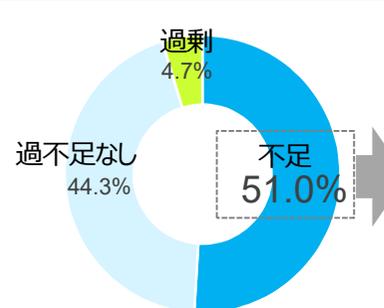
- ▶ 業種別では、前回調査比で、**全6業種のうち5業種で「採用を行う」と回答した企業の割合が増加**。
- ▶ 一方で、**小売業では「現時点では未定」と回答した企業の割合が増加**。



※棒グラフの左側が前回調査（令和3年6月）、右側が今回調査
※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

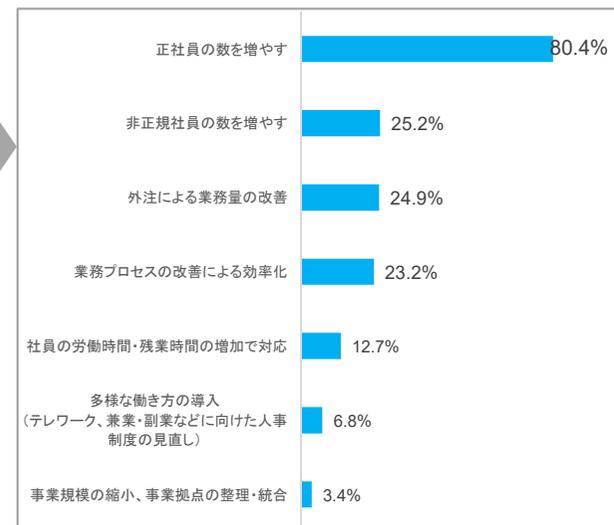
3. 人員の充足状況

- ▶ 「不足」と回答した企業が**51.0%**と約半数を占める。「過不足なし」は44.3%、「過剰」は4.7%となった。
- ▶ 業種別にみると、「不足」と回答した企業の割合は**建設業が68.1%**と特に高い。
- ▶ また、「不足」と回答した企業に、人員不足への対応方法について尋ねたところ、「**正社員の数を増やす**」が80.4%と最も多い。次いで、「**非正規社員の数を増やす**」が25.2%、「**外注による業務量の改善**」が24.9%、「**業務プロセスの改善による効率化**」が23.2%。



人員の過不足状況（業種別）	不足	過不足なし	過剰
建設業 (n=94)	68.1%	30.9%	1.1%
製造業 (n=60)	41.7%	51.7%	6.7%
卸売業 (n=86)	40.7%	51.2%	8.1%
小売業 (n=49)	49.0%	46.9%	4.1%
運輸・倉庫業 (n=29)	44.8%	51.7%	3.4%
サービス業 (n=147)	51.7%	43.5%	4.8%

人員不足への対応方法（複数回答）



【企業の声（一部抜粋）】

- ・社員の高齢化が進む中、後継者養成のために人材を募集しているが、仕事柄若年層には不人気で応募がない。確保のために募集時の賃金を高めに設定する必要があるが、既存従業員の賃上げも行う必要があるのが厳しい。（建設業：土木建設）
- ・就業時間や休日等が不規則な業種のため、人材確保が困難である。（サービス業：ホテル・旅館・飲食業）

「採用状況について」まとめ

▶ 令和3年度の採用実績について

- ・「募集し、採用できた」と回答した企業は、前回調査と比較して**3.8pt増加**。
- ・業種別みると、**建設業、製造業、小売業、サービス業**において、「募集したが、全く採用できなかった」と回答した企業の割合が、前回調査と比較して**増加**。
- ・一方で、**正社員を予定通り採用**できた企業は、**新卒、中途ともに**前回調査と比較して**減少**。
- ・企業の正社員採用意欲は高まっているものの、計画通りに正社員を採用できた企業の割合は減少。人材確保に苦慮している実態がうかがえる。

▶ 令和4年度の採用計画について

- ・「採用を行う」と回答した企業は、前回調査から**10.5ptと大幅に増加**。
- ・特に不足感の高い**建設業やサービス業**では、「採用を行う」と回答した企業の割合が**大幅に増加**。
- ・採用を行うと回答した企業では、**正社員、非正規社員の採用予定数を増やす**企業の割合が、**コロナ感染拡大前（令和元年6月調査）よりも増加**。
- ・企業の採用活動は、**コロナ感染拡大前の水準に戻りつつある**ことがうかがえる。

▶ 会議所の取り組み

当所としては、関係機関が実施する中途人材紹介事業との連携や、会社合同説明会の開催、会議所キャラバン事業など企業と学生との接点創出を通して、企業の人材確保を支援する。また、ITツールの導入を起点とした働き方改革による業務効率化を推進することで、中小企業が抱える人手不足の解消に寄与していく。